



地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

「お試し移住」、正式採択

180万円、ワークスペースも開設

再生協議会空き家対策部会(廣上正市部会長)が提出していたお試し移住事業が7月5日付で国土交通省から採択された。補助金交付上限額は180万円。空き家事業の採択は4年連続。県内では各自治体が移住・定住策に力を入れているが、民間主導はほとんど例がない。町外からの移住・定住のきっかけづくりになることが期待される。

事業の正式名は、一色小学校区地域空き家等循環再生事業。今年度の特徴は、「お試し移住」を重点的に取り上げ、実施回数を9月―来年2月の6回に増やしたこと。県住宅公社からリフォーム済みの2住戸を借り受け、合計12ファミリーが2泊3日実際に住んでもらう。関係費用のほとんどを補助金で賄う。応募者へのガイダンスとともに、町案内や居住物件の紹介も行う。昨年好評だった先輩移住者との懇談会も計画している。

新規の計画では、お試しでの来町者だけでなく、定住住民も利用できるコワーキングスペースを開設する。テレワークの普及が大都市からの人の流れを促していることから、常時利用できるワークスペースを設けることで、移住候補地としての魅力を高めたい考え。今のところ、百合が丘商店街の空き店舗の活用などを検討中。

最初の実施月の9月に向け、町外への広報PRの準備を急ぎ、29日(木)の部会で詳細を決める。昨年作成の募集サイトを補強し、県公社、民間事業者、メディアなどへも協力を要請する。



ヤマユリ開花 ピークに

友情の山(一色小)のヤマユリの開花が、一斉公開を控えてピークを迎えつつある。今年の開花は23日(金)―26日(月)4日間。少し前には公園愛護会メンバーが散策路の草刈り、支柱立てなどを行った。朝日、読売、神奈川新聞などメディアからの取材も相次いでいる。

開花の中心は例年通り、友情の池の上部辺り。約100株ほどが花開き、中には5、6もの花弁をつけたものもある。ヤマユリの開花は1週間ほど。去年は天候不順に見舞われ、実質2日の公開に終わった。今年は今のところ安定した日々が続くと見られ、数多くの来場を期待している。